

野原産業 | 新社長に高阪 貴夫 (こうさか たかお) が就任 目指すは、お客さま・建設業界のプロセス時間の最短化 ～異業種での知見、豊富な国際経験を建設業に活かす～

内装建材業界のリーディングカンパニーとして、お客さまとともに業界を創り上げ、商材・工法・情報を発信し続ける野原産業株式会社は、この7月、新社長に高阪貴夫を迎えました。

新社長の高阪は、これまで一般消費財や機械工業系部品の分野においてグローバルな環境で事業運営に取り組んできた経歴の持ち主です。

異業種での知見、豊富な国際経験をもとに、野原産業とお客さま、ひいては建設業界をどのようにとらえ、どんな未来を築こうとしているのか。

「Innovation」、「Digitalization」、「Globalization」をビジョンに掲げる野原グループの中核的な事業会社でもある野原産業が何を目指しているのか？

本号では、新社長 高阪へのインタビューを通じて、その未来予想図の一端をお届けします。



■野原産業 新社長 高阪 貴夫

“「我々の価値＝プロセス時間の最短化を実現するサービス・商品」をお客さまに”

—4月の入社から今まで、高阪社長の目に映った野原産業の印象は？

高阪：諸先輩の時代から築き上げてきた取引先との深い絆が我が社の財産だと感じている。特に、野原装栄会は短期間では成し得ない、お客さまとの関係性そのものであり、我々の事業を支えていただいている。

—社内の雰囲気については？

高阪：社内は活気に溢れ、社員は熱意と責任感を持って仕事に取り組んでいる。コロナ禍では、アクションの機敏性や実行力が試されたと思う。グループ全体の指針でもあったリモートワークを当社でも一定率でできたことは実行スピードとして評価できる。



■緑の下の力持ち_受発注・伝票処理をテキパキと

—建設業は、これまでの経歴からすると全くの異業種のように思います。

高阪：建設業は人々の生活に密接した巨大でダイナミックな魅力ある産業。建設業界は、人口構成や人々の価値観の変化、そしてI-constructionに代表されるようにデジタル化への移行が進む変革期にある。

機械工業系部品業界(15年間)では、その半分以上が海外駐在だった。商品開発や流通、EC事業のグローバル運営を経験し、様々な価値観をもつ人々とタッグを組んできた。**これからの事業経営にはデジタルを取込んだオペレーション効率化やマーケティング強化、そして多様な価値観をもった人材と組織運営を行っていくことは欠かせない。**これは建設業界においても当てはまると思う。建設業は、プロジェクトが長期間に亘り、プロセスの後期にあたる内装工事には計画の変更が多いと聞く。どこをデジタル化して時間を作り出すかを見極めていきたい。

—お客さまにどういった価値を提供するのか？

高阪：建設業界は、技能者の高齢化、若手入職者の減少による担い手不足、デジタル化の遅れや生産性向上、といった課題があると認識している。その中でお客さまへの価値提供を高めることに注力する。我々の存在意義は、建設資材の流通における利便性を高めること。つまり、**お客さまのプロセス時間を短縮**することが使命であり、そのために尚一層の努力をしていく。

—お客さまのプロセス時間短縮に向けた具体的な施策のイメージは？

高阪：例えば受発注や問合せ、物流対応にデジタルを取込み、サービスレベルの更なる向上を目指す。そのための体制強化、デジタル化への投資は継続して行っていく。

また、**施工の省力化につながる商品**（例えば**間接照明用のユニット「N-PITA」**）の開発と普及を積極的に進める。



■ N-PITA の据付検討会の様子

—デジタルイゼーションとプロセス時間の短縮が今後のキーワードですね。

高阪：コロナ禍により業界のデジタル化への移行時間軸は大きく前倒しとなった。当社をはじめとする野原グループは、すでにデジタルイゼーションをビジョンに掲げている。グループの中核事業会社として、スピード感をもって進めていく。

—最後にリーダーとして大事にされていることを教えてください。

高阪：私は、**お客さまとの信頼関係と社員の存在が、当社の事業最大の財産**だと感じている。**お客さまの利便性向上**が我々の第一の使命であり、使命を果たすために**デジタルの活用**を進めていく。これを実現するため社員のさらなる成長、そして組織力の向上を図っていきたい。

(インタビュー 終)



■ 未来を語り合う会長の村田(左)と社長の高阪(右)

間接照明ユニット「N-PITA」とは

「N-PITA」(エヌピタ)は、間接照明造作工事を省力化できる組立済みの間接照明ユニットです。

壁や天井材に多用される石膏ボードを成型し、チャンネルや亜鉛鉄板と組み合わせてユニット化しています。

現場ではビス留めだけの簡単施工で、間接照明の土台が完成します。

<4つの特徴>

- 簡単施工
- 工期短縮
- 高品質・高精度
- 廃棄量削減

▼間接照明ユニット「N-PITA」 WEB

<https://n-pita.jp>



■ラインナップ_左から順に、チャンネル、スチール、スチールK



■現場で N-PITA の収まりを入念にチェックする社員

▼新社長 高阪 貴夫(こうさか たかお)について

1969年5月生まれ。北海道出身。

趣味は旅行、英国製靴の収集(週末ゆっくり磨き込んで艶出しすると心が落ち着く、とのこと)

好きな言葉は「知っていることは行うことと同義ではない」



<主な学歴>

- 1992年3月 北海道教育大学札幌校教員養成課程卒業
- 1998年10月 英国ウエストミンスター大学大学院マーケティング修士了

<主な職歴>

- 1992年4月 P&G ファーイーストインク 入社
- 1998年11月 SAP ジャパン株式会社 入社
- 2001年1月 マースジャパン リミテッド入社
- 2005年3月 株式会社ミスミ 入社
- 2020年4月 野原ホールディングス株式会社 入社
野原産業株式会社 取締役
- 2020年7月 野原産業株式会社 代表取締役社長
VIETNAM NOHARA CO., LTD. 取締役会長

野原産業株式会社について

野原産業株式会社は、約 1,000 社のメーカーさまの多岐にわたる数万点もの商品を販売する総合商社です。

内装建材業界のリーディングカンパニーとして、全国 8 カ所で「野原装栄会」を運営し、各地の事業拠点とお客さまのネットワークを構築し、各種情報のご提供や新商材・新工法のご提案により、お客さまの事業領域の拡大に貢献してまいります。

【会社概要】

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

資本金：1 億円

代表取締役社長：高阪 貴夫

野原グループについて

野原ホールディングス株式会社を中心とする野原グループは、建設業界を中心に建材や鉄鋼関連、セメントなどの資材販売、道路交通標識などの販売・施工を通して事業を拡大。

2015 年より、多数の新規事業をスタート。新しい表現と自由な発想に寄り添う壁紙ブランド「WhO」、プロ向け建材通販サイト「アウンワークス」、建設情報のデジタル化を目指す「BIMobject Japan」など、プロセス変革と生産性向上により建設業界のアップデートに取り組んでいます。

今春の新型コロナウイルス感染拡大時には抗ウイルス製品等の BIM 掲載無料サービスにより営業活動の自粛に苦しむメーカーさまをバックアップ、6 月にはコロナ第 2 波に備えた医療体制の整備を支援すべく院外設置の医療用ゲル型仮設ドームを発売開始しました。

私たちは社会の一員として、コロナ禍後のニューノーマル時代にも事業を通じて社会に貢献してまいります。

【発行元】

野原ホールディングス株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿一丁目 1 番 11 号

社長室(担当/齋藤、青木)

電話：03-6328-1576

e-mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp

▼会社ホームページ

<https://www.nohara-inc.co.jp>